

# 質的研究の分野・認識論による差異と共通点



参加者\*: 瓜生利郎(国際関係)・楊雨双(社会学) 上田愛(国際関係)・竹松未結希(先端) 伊東香純(先端)·寺下和宏(神戸大学)

\* 所属は申請当時のもの

### イントロダクション

• 問題意識

「質的研究」の方法はみんな 同じじゃないの?

・昨年までの課題と今回の活動目的

### く昨年度>

個々の関心に沿った文献輪読

: 一部の方法に偏り、分野間の差が 不明瞭

今年度

カリキュラム化によって分 野・認識論による差を把握

RESEARCH

これにより・・・

- ①質的分析/調査の方法を学ぶ
- ②認識論・分野による質的研究の差異と共通 点を明らかにする → 分野を超えた連携

## 3 成果

• 成果

各方法における認識論・分野によ る差と共通点の発見

EX) インタビュー: 差異の一例

	社会学	人類学	政治学
実証	事実の解明	新発見	因果推論に 重点
 解釈	間の存在	相互利用	明確な差
	主観デー タの解釈	フィールド での合理性	理論の補強

・研究報告会の開催 研究科間、分野間のつながり強化

=大学院正課授業の穴埋め機能

#### 方法 2

- ・運営方法
  - ①各自が必ず課題文献を読み レジュメを作成
  - ②新型コロナ感染拡大のため 全てオンラインで開催
  - ③Slackを活用 → 情報共有円滑に
- ・参加者の専門と関心

専門:社会学、人類学、政治学 関心:社会運動、国際組織、 ジェンダー、宗教、 更生施設、国際関係・・・

課題文献:11本の文献を輪読

#### 議論と課題 4

- ・質的調査/分析の方法論に向けて : フィールドに出る前に何らかの Tipsはやはり必要 (お作法としての「方法論」)
- ・分野、認識論による差異の認識 : 横断・連携時の齟齬を理解する
- 今後の課題
  - ①分野や認識論における差異を いかに乗り越えるか?
  - ②ポスト・コロナ時代の研究会運営 : オンラインによる連携のあり方